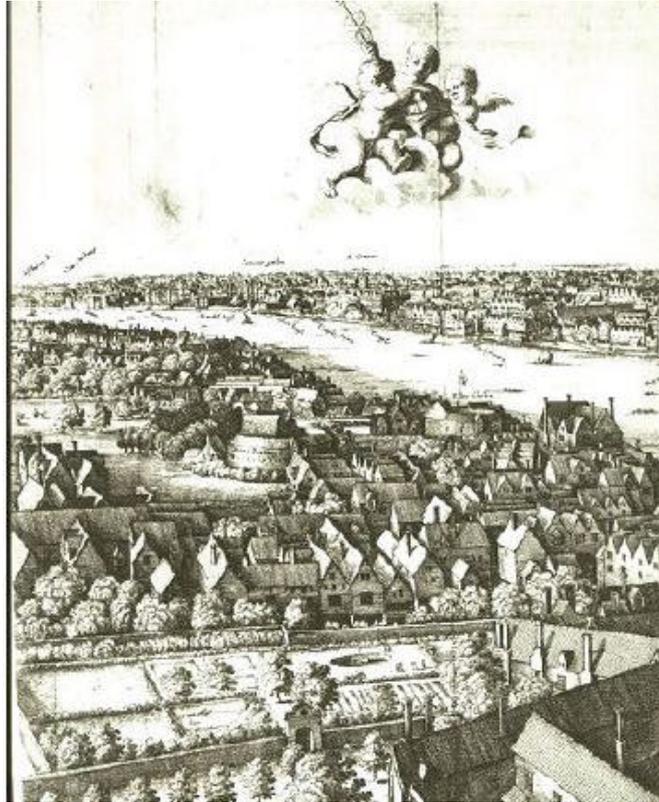


英米文化学会会報

第 42 号

平成 12 年 2 月 16 日版



The Globe Theatre

目次

英米文化学会第 102 回例会および総会開催のお知らせ

例会発表要旨

第 18 回大会研究発表者募集のお知らせ

事務局からのお知らせ(重要!!平成 12 年度学会暦掲載)

英米文化学会第 102 回例会および総会開催のお知らせ

標記の例会と総会を下記の要領で開催しますので万障お繰り合わせの上ご出席ください。

開催月日：平成 12 年 3 月 11 日(土)

15:00-17:00 研究発表(受付 14:30-)

17:00-17:30 総 会

場所：日本大学歯学部 3 号館 2 階第 5 講堂(御茶ノ水ニコライ堂隣) 本号 4 頁に地図掲載

懇親会：於 中央大学駿河台記念会館内第一ホテルクリオール 18:30 - 会費 5,000 円

研究発表タイトルと司会者

- 17世紀初頭ロンドンにおける金系銀系の生産とその専売特許
日高 杏子（東京芸術大学大学院）
司会 小林 弘（東京理科大学）
- 『ブライズデイル・ロマンス』をめぐる一考察
大内田 優子（麻布大学）
司会 吉原 令子（法政大学）
- リトルビッグホーンの戦いとカスター
岡田 吉央（慶応義塾志木高校）
司会 石山 伊佐夫（桐蔭学園横浜大学）

第18回大会研究発表者募集のお知らせ

第18回大会が以下の通り開催されます。

開催日：平成12年9月9日（土）10日（日）

場所：盛岡大学（予定）

上記大会の研究発表者を募集いたしますので、会員の皆様にはふるってお申し込みのほどお願いいたします。発表希望の先生は、研究発表題名、400字程度の発表要旨に、ご氏名、所属（勤務先）を明記の上、封書でお申し込み下さい。発表要旨は出来ればフロッピーをご同封下さい。発表時間は30分となります。発表申込締切は4月10日です。

発表申込先：大会担当理事 曾村 充利 〒165-0032 中野区鷲宮4 25 12

第102回例会研究発表レジメ

1. 17世紀初頭ロンドンにおける金系銀系の生産とその専売特許

日高 杏子

17世紀初頭ロンドンにおいて金・銀系産業は、それらをちりばめた豪華な染織品の国内生産の発達に貢献していた。また、身体上で金・銀を使った染織品によって、国王達の権威を表すために大切な役割を果たしていた。国王は金系銀系の生産を国内産業として奨励するために、Letters Patent（専売特許）と呼ばれた独占権を彼の寵臣達に与えた。これにともない、金系銀系職人、製品を扱う商人、及び貴族の専売特許に関わる利害が存在し、この問題は議会での反発を招いていた。加えて、16世紀後半以降ロンドンでは、経済発展とともに人口増加と物価の高騰が起きたにもかかわらず、金・銀系職人の賃金はさほど上がらなかったために、彼らの生活は苦しくなる一方だった。

これらの背景をふまえ、金系銀系の生産にともなう肯定的側面、及び否定的側面を分析する。これらの実情に対して王室のとった政策が、どのように1640年代に起きた清教徒革命の原因の一つになったのか、に焦点を当てる。

2. 『ブライズデイル・ロマンス』をめぐる一考察

大内田 優子

ホーソーン作品は、十九世紀の時代認識で十七世紀の社会を逆照射するような、時間または空間的二重構造をもつところがある。熱烈な女権拡張論者であったエリザベス・ピーボディの妹のソファイアと結婚した彼が、彼自身の時代の風潮を作品に投影したとして不思議はなく、事実、マーガレット・フラワーをモデルにしたとされるゼノビアをめぐる男女の問題を『ブライズデイル・ロマンス』に残している。今回の発表では、彼の三作目のこの長編が従来「ヴ

エイルの物語」として、何が隠されているのかという部分に焦点を当てて読まれてきたのに対し、作者がジェンダー問題をどう捉えたかを考察することを目的としたい。また、ホーソンが描いたダーク・レディとフェア・レディの対照的なヒロイン像は、両方ともが男性優位のジェンダー構造に組み込まれ、結果としてそれを支える役割を担ってしまうことを述べる。それにゼノビアとプリシラの、自らが父親に棄てられたという記憶が関係していることを検証し、さらには、作者自身の「父という余分なもの」への意識にもふれたい。

3. リトルビッグホーンの戦いとカスター

岡田 吉央

1876年7月、沢山の人達がアメリカ合衆国独立100年祭を楽しんでいた時、西部のモンタナでは、合衆国民を悲しみのどん底に陥れた大事件が起こった。若くして南北戦争やインディアン戦争で大活躍したGeorge Armstrong Custerと彼の部隊、第7騎兵隊が、インディアンによって全滅させられたのである。これは白人の軍隊がインディアンに完敗した最初で最後の戦いであったのだが、敗戦のショックは白人の心に深く残り、この戦いの後、沢山の平原インディアンが白人によって殺されることになった。そしてCusterとリトルビッグホーンの戦いに関する研究は比較的早くから行われてきたが、それらは、Custerの人柄や彼に関する神話の分析に傾くものであった。従ってこの発表では、Custer夫妻が残した書物や手紙などの資料を使うことによって、彼の西部観やインディアン観を浮き彫りにすることで、Custerとリトルビッグホーンの戦いを分析していくことにしたい。

事務局からのお知らせ

来年度の例会と大会の予定は下記の通りです。場所等の詳細は会報に掲載します。

	第103回例会	第18回大会	第104回例会	第105回例会
例会・大会	6月10日	9月9・10日	11月18日	平成13年3月10日
発表申込締切	4月10日	4月10日	9月18日	平成13年1月10日

会員の動き 省略

<電話番号の訂正>

<新入会員> (申込受付順)

書評：モーリス・モーガン著/宮本和恵・宮本正和共訳『サー・ジョン・フォルスタッフ』(こびあん書房、平成11年8月刊)

サー・ジョン・フォルスタッフはシェイクスピアの創造した性格の中でも特に忘れがたく不思議な魅力を持った人物であるが、本書はMaurice Morgann (1726-1802)のAn Essay on the Dramatic Character of Sir John Falstaff, 1777の翻訳である。学会員の宮本ご夫妻が訳出されている。モーガンは大のフォルスタッフ贗員であったようで、テキストに照らしての喜劇的人物の性格を検討し、フォルスタッフは臆病者ではないのだと主張する。モーガンのフォルスタッフ論が及ぼした影響は軽視できないので、シェイクスピア研究者が本訳書から蒙る恩恵は少なくないと思われる。(中村 豪)

例会会場地図



第102回例会会場日本大学歯学部3号館と南隣の中央大学駿河台記念会館

英米文化学会会報 第42号 編集・発行：英米文化学会編集委員会 = 池田 広子、小川 喜正、
岸山 睦、中村 豪、山根 正弘
発行責任者： 中村 豪 〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷2509-12 048-787-4693

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp 学会ホームページ <http://www.threweb.ad.jp/~shakey23/>